

都中道研

第一三〇号



副会長 長野 基（昭島市立昭和中学校長）

コロナ感染症が5類に移行したことにより、学校現場では様々なことをコロナ前に戻そうとした令和五年度です。

本会におきまして、今年度も年間計画に沿って事業を進めてきました。六月の総会・研修会、八月の第一回部員総会・研修会、一月の第二回部員総会・研修会は今年度もオンラインと会場参集のハイブリッド方式で開催しました。二月二日の杉並区立向陽中学校における研究発表大会では、四年ぶりに研究授業で教室に大勢の人が入り、部員の授業展開と生徒の反応を肌で感じていました。もちろんオンラインでも授業を参観していただきました。

当日は本年度の研究テーマ「教科の特質を生かしつつ、これからの時代に対応する道德科の指導の

工夫」に迫るため、三名の部員が同じ教材「闇の中の炎」をそれぞれ違う内容項目で進めました。ICTの活用にとらわれず、個別最適な学びと協働的な学びを意識した授業を実践しました。

本年度のアンケート結果で、ICTの活用や発問の工夫、話し合いの工夫に力を入れる先生が増えました。また、学校生活の様々な場面で誰でも意見を言える雰囲気大切にすることで、生徒同士の話し合いが活発になった学校が増えていきます。「質の高い多様な指導方法」や「評価」の課題はありますが、道德科指導への教員の意識が年々高まっていることは、今後に期待をもちます。

学習指導要領「第3章第2内容」の課題である、教師と生徒が共に考え、共に語り合う道德授業を実践し、生徒が道德性を養えるように、より適切な指導方法の研究を進めて参ります。本研究会では、多くの先生方と共に研究を進められることを楽しみにしています。

令和六年度の活動予定

事務局長 生野 まゆみ

（調布市立神代中学校校長）

一 令和六年度活動予定

主な日程は、次の通りです。会場等詳細については、HPにて、お知らせいたします。

（一）総会・研修会

令和六年六月

（二）第一回部員総会・研修会

令和六年八月

（三）第二回部員総会・研修会

令和七年一月

（四）第五十四回研究発表大会

令和七年二月中旬

二 全国大会・関東甲信越大会

第五十八回全日本中学校道德教育研究大会、第五十三回関東甲信

越中学道德教育研究大会は神奈川大会として、同時開催となります。

日程等は、次の通りです。変更

が生じる可能性もありますのでご了承ください。

詳細については、HPにてお知らせします。

神奈川大会

令和六年十一月二十一日（木）

二十二日（金）

一日目 公開授業・研究協議・指導助言・レセプション

二日目 閉会行事・課題別分科会指導講話・記念公園・閉会行事

【メイン会場】

カルッツかわさき（川崎市スポーツ・文化総合センター）

住所 川崎市川崎区富士見

一・一・四

【学校会場】

川崎市立渡田中学校

住所 川崎市川崎区渡田向町

十一・一

大会主題は、「自他を大切にすることを育む道德教育の充実」学びのつながりを感じ、自己の考えを深められる授業づくりを通して」です。東京都中学校道德教育研究会では、第3分科会「道德の指導と評価」について、研究発表を行う予定です。

令和五年度研究部活動報告

研究部長 池田 和幸

(杉並区立向陽中学校 副校長)

今年度も昨年度と引き続き、会場とオンラインを併用したハイブリッド型の研究部会を開催した。

研究主題を「教科の特質を生かしつつ、これからの時代に対応する道德科の指導の工夫」として、一年間の研究活動を行った。昨年度までと同様に、3つの柱を建てて研究活動を行った。

(1) 関東ブロック大会・全国大会に向けて

四月から十月まで関東ブロック大会・全国大会に向けた研究について、研究部内で検討を行いながら研究の積み上げを行った。

全国大会では、太田区立南六郷中学校三瓶真悟先生が「運動会に関連付けた道德教育充実の取組」認め合い、支え合い、高め合う生徒の育成を目指して」と題して発表を行った。関東ブロック大会では、世田谷区立桜丘中学校大谷

秋音先生が「学習評価を活用した道德科の指導の工夫―自らの考えをより深めようとする生徒の育成を目指して―」と題して発表を行った。

全国大会の発表においては、運動会という行事を通して道德教育との関連付けを行った上で、道德教育の要としての道德科の指導を行い、生徒の道德性の育成を目指した発表となった。道德科の特質を生かし、様々な教育活動とどのようにに関連付けを行うことが生徒の道德性を高めることに効果的なのかについて、多くの参加者から学校行事と道德教育の関連を高める工夫として参考になるという声が寄せられた。

関東ブロック大会の発表では、生徒の振り返りの場面を中心に、学習評価にICT機器を活用し、自らの指導にも生かしていくことで、生徒がより考えを深められるように工夫した発表であった。会場で参加した先生方から、ICT

機器の長所を生かした取組で、多くの先生が学校に持ち帰って実践しやすいとして好評であった。

(2) 研究発表大会に向けて

十一月から二月の研究発表大会に向けて、「個別・最適な学習」、「協働的な学習」という2つのキーワードを基に、どのように指導を工夫していけばよいかという視点で指導案の検討を行った。授業者3人を中心に3グループに分けて指導案検討を重ねた。教科化となり、各地区で採択している教科書が異なるため、研究授業で取り上げた教材が参加者が学校に戻って使用しやすいように、文部科学省の中学校道德読み物資料集に掲載されている「闇の中の炎」を用いることとした。

具体的な指導案検討にあたり、授業者を中心としたグループに集まった先生方が、生徒に考えさせたいことを大切にするため、あえて主題を定めず、グループの先生方で主題を決定した。結果として、

3つのグループにおいて、それぞれ別の主題として研究授業を実施することとなった。

八王子市立宮上中学校海老澤宏先生のグループでは、主人公が自分自身を許さなかったという部分に着目させ、自律的に考え、自分を見つめなおしているところを深めたいというところから、「自律」を主題とした。「個別・最適な学習」に関する視点として、発問、特に問い返し発問について、多様な発言に対して準備をしておき、全体に投げかける問い返しと個別の発言に対して応じる問い返しと区別して準備をすることで、生徒の個別的な学びにつなげられるように準備をすることとなった。

「協働的な学習」に関する視点としては、座席をコの字型配置に動かし、グループをごとに話し合い、や答えさせるなどの工夫を行い、授業での協働的な学びが得られるように工夫した。

多摩市立鶴牧中学校鈴木美帆先

生のグループでは、著作権について理解させ、法律やきまりの意義についても考えさせながら規範意識について考えさせたいという思いから、「遵法精神」を主題とした。「個別・最適な学習」の視点として、生徒がICT機器か紙で書くかなどを選択し、提出された内容から誰と意見交換するかを選べるというように学習方法、学習相手を生徒が選べるように工夫した。「協働的な学習」に関する視点では、ICT機器の利点を生かし、多くの意見に、考えに触れさせながら、自分自身の考えを広げさせていくように工夫した。

世田谷市立桜丘中学校大谷秋音先生のグループでは、コンクールに出品する話の始まりに着目し、公平性がコンクールにとって最も大切であるというところから、「公正・公平」を主題とした。「個別・最適な学習」の視点では、ICT機器を活用し、振り返りの内容、視点を明確化したワークシー

トを提出されることで、一人一人の学びを深めさせるように工夫した。「協働的な学び」の視点では、ICT機器の利点を生かし、学級の生徒の意見を網羅的に確認させていくことで、多くの考えに触れていくことができるように工夫した。

第五十三回東京都中学校道德教育研究発表大会（会場・オンライン配信併用ハイブリッド開催）

令和六年二月二日（金）

（会場）杉並区立向陽中学校

【公開授業】

教材 「闇の中の炎」 出典 中学校道德読み物資料集 文部科学省刊

向陽中学校二学年に研究部員が授業を行った。

2年A組

（授業者）世田谷区立桜丘中学校 大谷 秋音 教諭
（内容項目）C 公正, 公平, 社会正義

2年B組

（授業者）多摩市立鶴牧中学校 鈴木 美帆 主任教諭
（内容項目）C 遵法精神, 公徳心
（授業者）八王子市立宮上中学校 海老澤 宏 主幹教諭
（内容項目）自主, 自律, 自由と責任



【研究発表】

① 会長挨拶

多摩市立聖ヶ丘中学校

麻生 隆久 校長

② 研究部長より

研究主題、活動の概要、本日の授業について

杉並区立向陽中学校

池田 和幸 副校長

③ 道德推進に関するアンケート調

査報告

昭島市立昭和中学校

長野 基 校長

④ 指導講評・講話

「道德科における指導の工夫について」

講師 国立教育政策研究所教育課程調査官

井上 結香子先生

（3）アンケート調査について

例年校長会を通して依頼して実施しているアンケート調査は、ポイントを部員総会・研究発表大会で報告した。アンケート結果の全容と考察は研究紀要に載せていくこととする。

今年度の成果をもとに次年度更なる研究の深化を図っていききたい。詳しい研究のまとめは、年度末に発行する研究紀要をご参照いただきたい。一年間様々な皆様のお力を借りて研究活動を進めることができた。関係した皆様に感謝を申し上げます。

令和五年度の後期活動報告

事務局長 生野 まゆみ

(調布市立神代中学校校長)

一 全国大会・関東甲信越大会

(一) 第五十二回関東甲信越中学校道徳教育研究大会栃木大会において、大会主題「未来を切り拓き、豊かな心を育む道徳教育」語り合い、高め合いより良い生き方を追究する生徒の育成」を受け、「道徳科における評価の工夫」について、大谷 秋音 研究部員(世田谷区立桜丘中学校)が研究報告をしました。

(二) 第五十七回全国日本中学校道徳教育研究大会北海道大会において、大会主題「主体的に学び合う児童・生徒の育成」をテーマに「道徳科と他の教育活動との関連」について三瓶 真悟 研究部員(大田区立南六郷中学校)が研究発表をした。

二 第二回部員総会・研修会

令和六年一月十九日(金)に、高円寺学園(杉並区立高円寺中学校)にて、第二回部員総会・研修会が行われました。

(一) 部員総会

各部より、進捗状況と、部員への周知事項の報告がありました。

(二) 研修会

第五十七回全日本中学校道徳教育研究大会北海道大会について、三瓶 真悟 主任教諭(大田区立南六郷中学校)が報告しました。

また、第五十二回関東甲信越中学校道徳教育研究大会栃木大会について、大谷 秋音 教諭(世田谷区立桜丘中学校)が報告しました。

(三) 講演

東京都教職員研修センター研修部 授業力向上課 教授 森岡 耕平先生に指導・講話をいただきました。

三 第五十三回東京都中学校道徳教育研究会研究発表大会

令和六年二月二日(金)に杉並区立向陽中学校を会場とし、オンラインで、研究発表会、指導講話が行われました。

(一) 公開授業

東京都中学校道徳教育研究会研究部員と、東京都教師道場道徳科の部員による公開授業を、二学年三学級、で実施しました。

(二) 研究発表

池田 和幸 研究部長(杉並区立向陽中学校副校長)から、大会主題の「教科の特性を生かしつつ、これからの時代に対応する道徳科の指導の工夫」について、発表がありました。

(三) 指導・講話

国立教育政策研究所教育課程調査官 井上 結香子 様 より、「道徳科における指導の工夫について」指導講話をいただきました。(講話の一部を紹介します)

これまでの道徳の時間の授業には、読み物の登場人物の心情理解に終始したり、ねらいの設定が不

十分な話し合いをさせたりするなど課題の指摘がありました。特別の教科化により課題を解消するために、読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習などが深い学びにつながる指導方法として例示されました。様々な体験や教材との出会い、他者との対話などを手掛かりとして自己との関わりを問い直すことにより、そこから本当の理解が始まると考えられます。

ICTの活用例としては、事前アンケートを導入で全体共有する実践があります。また、自分とは異なる意見を持つ他者と議論する時にICTを活用することで、瞬時に多様な意見を共有でき、より対話を深める時間を十分に取れるようになることが期待されます。さらに、パネルディスカッションのような授業でフロアの生徒たちの考えをチャットで共有し、代表の生徒たちがそれを見ながら、さらに考えを深めていくことも考えられます。また、継続的な授業によって生徒の学習状況を見取り、生徒がいかに成長したかを積極的に認め励ます個人内評価を行う道徳科では、例えば毎時間の授業記録を端末に保存することにより、生徒が自らの学びを振り返り成長の様子を実感したり、教師が生徒の学びを見取り、評価に生かしたりすることも考えられます。

道徳科の内容は、生徒と教師が共に考え、語り合い、その実行に努めるための共通の課題と示されています。大人であっても答えが明確に1つに定まっているわけではなく、常に問い続けて考え続けなければならぬものが多いと考えると、道徳科では、他教科と違い、共に考え続けることがより大事な教科と言えます。思春期にさしかかる中学生という発達段階を踏まえ、中学生が深く考え、楽しいと思える、そのような授業を、先生方も楽しんでつくっていただきたい、生徒と共に考え、共に授業を創っていくことを続けていただければと思います。

編集後記

日頃より、都中道研の活動にご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。この度、広報第一三〇号をお届けいたします。今後も、ご協力の程よろしくお願いいたします。

広報部

部長 佐藤 正敏

(足立区立第十四中学校副校長)

副部長 高橋 優子

都中道のホームページ

<https://www3.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?cid=1350004>

